

迷子防止図鑑

猫編

家族である猫を進んで迷子にさせる人はいません。しかし、気をつけているつもりでも、うっかりや不注意で逸走は起きています。猫が迷子になると交通事故などで「死」に直面することがあります。このチラシは、猫の迷子に関する調査結果をもとにした、逸走が多い事例と、具体的な迷子防止策を解説しています。愛猫が迷子にならないように、ねこ親さんに防止策をぜひ実行していただきたいと願っております。

室内からの逸走を防ぐ ちばわんの調査によると、猫が「網戸」を自分で開けてしまった。という報告が増えています。

猫は完全室内飼養に

昔は、猫が家に出たり入ったりするのが普通でした。しかし、現代では猫を取り巻く環境が大きく変わりました。昔と違い交通量が増加したため相当数ののぼる猫が交通事故にあっています。ほかの猫とのケンカによる怪我や感染症も心配です。外に出て迷子になり、そのまま路上生活を送るようになり、病気や怪我で命を落とす猫も相当数います。

猫は自分のテリトリーが守られていれば、室内だけで快適に暮せる動物です。狭い場所でも、ほかの人や動物に侵害されなければ、居心地のよいスペースになります。猫は上下運動が大好きですから、家具の上に居場所を作ったり、市販のキャットタワーを設置するのもストレス解消に役立ちます。

外出させたりさせなかったりという中途半端

はよくありません。猫は外にテリトリーがあると思ひこみ、外出したがるようになります。成猫になってから完全室内飼養にする場合は、しばらく大きめのケージに入れて、スペースに慣らすのもひとつの方法です。

完全室内飼養にしようとして脱走・逸走に気をつけてください。普段から、迷子札つきの首輪をつけさせたり、マイクロチップの注入など、飼い主がわかるようにしてください。そして窓、ドアの開閉に注意しましょう。

意外と危険な“網戸”

室内からの逸走事例として報告の多いのが、網戸からの脱走です。猫は扉を開けるのが得意で自分で開けてしまうことが多いです。鋭い爪で網を破ることもあります。

また、2階の窓だからと安心してしていると、屋根

に出て脱走することもあります。

網戸ストッパー（ロック）を設置したり、網戸を破ることができないように、網戸の前にフェンスを置か、網戸をしなくても空気の流れ替えが可能な換気扇を設置するなど、脱走防止の工夫をしてください。



移動時の逸走を防ぐ 猫はお散歩をしませんので、犬より迷子事例は少ないですが、キャリーでの移動時の逸走事例が多いです。

猫の安全な運び方

上記のとおり、猫はお散歩の必要がありませんので逸走の危険がより高いのは、通院などで外出させるときです。



運搬用の布製キャリーバックはつぶれやすいため、猫を入れにくく出しにくいタイプのもがあります。籐製のキャリーは中に入れた猫が咬んで籐かごを壊してしまった例があります。丈夫なプラスチック製のクレートがオススメです。天井面の蓋が開き、上から猫を出し入れできるタイプがベターです。

猫は器用ですので、中から扉を自分で開けてしまった例もあります。養生テープでドアを補強したうえ、クレートを風呂敷に包む、またはクレートがすっぽり入るトートバッグに入れることを推奨します（夏場はアイスノン等を一緒に入れることをお勧めします）。屋外では出入り口を不用意に開けないよう注意しましょう。クレートから出し入れするとき、猫が興奮しているときは、タオルをかぶせながらゆっくり抱き上げると興奮しにくいです。横から無理に手足を引っ張るのは猫が嫌がりますのでやめましょう。



暴れる猫の移動方法には、「洗濯ネット」に入れてからクレートに入れる方法もあります。そうすれば、クレートを開けた瞬間に飛び出したり逸走する危険を避けられます。病院ではネットに入れたまま、診察や注射をしてもらえます。洗濯ネットは破れやすいので、洗濯ネットだけで移動せず、クレートなど丈夫なケースと併用してください。そして、クレートから出すときネットが破れてないか注意しましょう。猫の性格によっては、「洗濯ネット」に入れるほうが難しいこともあります。その子に合った安全な移動方法を見つけてあげてください。



万が一、猫が逃げたときは、時間帯にかかわらず、至急、元預かりさんに連絡をしてください。迷子捜索は初期対応が重要です。時間の経過と共に事故に会う危険も高まります。ちばわんメンバーが迷子ポスター・チラシの制作をお手伝いをいたします。